The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞秋本吉徳・藤井由紀子編『兵部卿物語全釈』
Author(s)	小林, 理正
Citation	語文. 2019, 113, p. 53-53
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77687
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

秋本吉徳・藤井由紀子編『兵部卿物語全釈』

小林　理正

いまだ文学史上の位置づけが定まらない中世の王朝物語群の中から『兵部卿物語』を取りあげ、詳密かつ簡明な注釈と現代語訳を付したうえで校訂本文を斯界に提供するものが本書である。本文と注、そして現代語訳の在り方を中心に本書の特徴について述べ、紹介としたい。

そもそも『兵部卿物語』は諸本間における本文の揺れ幅が小さい。それゆえ（というわけではないだろうが）、本書が新たに示した校訂本文を通覧しても底本の誤脱衍の類いを整訂したものが多いように見受けられる。そのためか旧来より提示されてきた校訂本文と大きく違わず、特筆すべき点はないように思う。もちろん、いうまでもなく、研究に耐えうる本文を整訂し、提供した点において本書は中世の王朝物語研究史上評価されてよかろう。

注には『兵部卿物語』の注釈書であるがゆえの特徴がある。というのも『源氏物語』の強い影響下に成った『兵部卿物語』であるから、『源氏物語』を踏まえると考えられる表現を数多く指摘している点である。もちろん、ここには『狭衣物語』と関係する表現事例も含まれる。

現代語訳は簡明な表現であるが、先行作品を引用・模倣した表現がもたらす重層的な〈読み〉を文章として十全に訳出するには至っていない。引用表現などの現代語訳の難しさを思わされるところである。

とはいえ、このような状況に対し、本書は注にて先行作品との関連を指摘したうえで詳細な説明を施すことで、『兵部卿物語』の本文を十全に読み解けるよう配慮がなされている。加えて、参考として掲げられる資料に中世期の和歌や『平家物語』、『方丈記』、『徒然草』をも含めた点は重要であろう。これは『兵部卿物語』の語彙に中世語や近世的な表現と思しいものが存在するためだが、他の中世の王朝物語を考えるうえでも示唆的な注釈態度といってよい。たとえば近世写本しか伝わらない物語ともなれば、そこにみえる表現は近世期以前に成立した作品との関係でもって考える必要がある。――「中世王朝物語」という専門用語に惑わされ、伝本自体の書写年代を考慮することなく、鎌倉期以前の資料群のみを調査対象にするとなれば、作品の本質を見誤りかねない。本書の注の在り方は如上の問題への批判ともなろう。

なお本書にみえる〝評〟はすべての節に付されているわけではないけれど、読解補助はもとより他の物語との差異、あるいは共通する趣向についての言及がなされている。近年発刊される注釈書に見る機会の多い「コラム」とは異なり、有益なものであり、『兵部卿物語』を読み解くにあたり裨益するところ大である。

（武蔵野書院、二〇一九年二月、一三八頁、三、五〇〇円＋税）

（こばやし・ただまさ　本学大学院博士後期課程・日本学術振興会特別研究員）